

Traditions and customs <based on **superstitions** and **religion**> / have  
S ↑ 過去分詞の修飾 V  
been an important aspect of weddings / in all cultures.

**Though** many traditions and customs have been forgotten through the years, / many of today's wedding ceremonies have their beginnings / in ancient **beliefs** and customs / [that originated / in **medieval** times].

☑ 内容Check!

問 次の各文が正しければ（ ）に○を，誤っていれば×を記入しなさい。

1. In every culture, traditions and customs are a significant part of weddings. ( )
2. Christians like white for weddings because they think it symbolizes purity. ( )
3. In Hinduism, red doesn't have a good meaning, but in China, it does. ( )

### ❖覚えておきたい表現

■ vary from one ~ to another 「～によって異なる」

ℓ.2 : They **vary** greatly **from one** country **to another** and sometimes even between different ethnic groups in a particular country. 「それらは国によって大いに異なり、また時には特定の国の異なる(少数)民族集団間においてさえも、大いに異なっている。」

・ vary from one ~ to another または vary from ~ to ~ の形で「～によって異なる」の意味を表す。

Ex. Gestures **vary** somewhat **from one** culture **to another** [**from** culture **to** culture]. 「ジェスチャーは文化によっていくらか異なる。」

■ S be believed to do 「Sが…すると信じられている」

ℓ.9 : White was a color that **was** once **believed to** keep evil spirits away. 「白は、 邪悪な霊を遠ざけるとかつて信じられていた色だった。」

・S be believed to doは「Sが…すると信じられている」の意味で、これはbelieve A to do「Aが…すると信じる」の受動態の形（doは通例beや状態を表す動詞）。本文ではbe believed to keep ...の主語は主格の関係代名詞のthatで、その先行詞はa color。

Ex. Four **is believed to** indicate death in Japan, so some hotels don't have a Room 4. 「日本では、4は死を表すと信じられているので、4号室のないホテルもある。」

■ associate A with B 「AでBを連想する；AとBを結び付ける」

ℓ. 12 : In China, both the bride and groom are dressed in red, which is a color **associated with** celebration and good fortune. 「中国では、新郎新婦の両人が赤い色に身を包むが、これは祝賀と幸運に結び付けられている色なのである。」

・ associate A with Bで「AとBを連想する；AとBを結び付ける」の意味を表す。Aを主語にした受動態の形はA be associated with Bとなる。ここではassociated with ～が過去分詞句としてa colorを修飾している。

Ex. What do you **associate** the number 13 **with**? 「13という数字で何を連想しますか。」

## 整理しよう！\*段落要旨・構造\*

## ① 結婚式と、伝統・慣習との関係

- ・あらゆる文化において、伝統と慣習は結婚式の重要な側面だ。  
国や民族間によって異なる。

## ② 古くからの信仰・慣習が結婚式に与える影響

- ・多くの伝統や習慣は忘れ去られている。

◆ *ℓ.5* **Though 「しかし：逆接」**

- ・今日の結婚式の起源は中世に端を発する。

- ・例：キリスト教…新婦は白いドレスを着る。→白は純潔を表す。

◆ ℓ.10 On the other hand 「一方：对比」

ヒンドウ教…新婦は赤いドレスを着る。→白は死の色を表す。

中国…新郎新婦は赤い衣装を着る。→赤は祝賀と幸運を表す。

## 背景知識

## ●色の文化的意味

色の持つ意味は国や宗教、文化圏によって異なり、文化を理解する上で重要な側面となっている。

西洋文化では、赤は「情熱」や「激情」の意味を持ち、キリスト教においては、「罪惡」や「罪」を表すことがある。東洋では、赤は「めでたい」感情を表し、祝事に深い関わりを持つ。本文にもあるように、インドや中国では結婚式で赤い衣装を身に着け、披露宴会場の幕やテーブルクロスも赤で統一される。日本でも祝事には紅白として赤が使われる。

白は世界の多くの文化で、「純潔」「清廉」「善」などの良いイメージを付与されている。キリスト教でも天使は白衣をまとうて表現されることが多く、英語では「罪がない」ことをwhiteで表すこともある。西洋では結婚式の花嫁は白いウェディングドレスを身にまとう。日本でも白は、古くから神聖な色として最高の祭服に用いられている。

しかし、白は東洋では特に葬儀ともゆかりのある色で、ヒンドゥー教やイスラム教でも死者は白い布を身にまとい、<sup>カウ</sup>糸毬にふされる。中国では葬式を「白事」といい、多くの地域で死者や遺族のみならず白を葬式の色として貫くのが一般的である。

これに対し、西洋の喪服は黒であるが、これはキリスト教の司祭が死者のミサで着る法衣が一般に浸透したものである。現代日本においても喪服は黒が一般的であるが、古代より明治以前においては、変遷はあったが白が一般的であった。現代の黒の喪服は、明治になって、国喪の際、政府がヨーロッパの礼服にならって一般国民に告示したことによる。

「深めたい人に」：風見明『「色」の文化誌』（工業調査会，1997年）